



## システムの健全性とイベント Cloud Volumes ONTAP

NetApp  
April 23, 2024

# 目次

システムの健全性とイベント.....	1
AutoSupport のセットアップを確認します .....	1
EMS を設定します.....	4

# システムの健全性とイベント

## AutoSupport のセットアップを確認します

AutoSupport は、システムの健全性をプロアクティブに監視し、ネットアップテクニカルサポートにメッセージを送信します。デフォルトでは、各ノードで AutoSupport が有効になっており、HTTPS 転送プロトコルを使用してテクニカルサポートにメッセージを送信できます。AutoSupport がこれらのメッセージを送信できることを確認することをお勧めします。

必要な設定手順は、Cloud Volumes ONTAP がアウトバウンドインターネットに接続されていることを確認することだけです。詳細については、クラウドプロバイダのネットワーク要件を参照してください。

### AutoSupport の要件

Cloud Volumes ONTAP ノードには、NetApp AutoSupport へのアウトバウンドインターネットアクセスが必要です。ネットアップは、システムの健全性をプロアクティブに監視し、ネットアップテクニカルサポートにメッセージを送信します。

Cloud Volumes ONTAP が AutoSupport メッセージを送信できるように、ルーティングポリシーとファイアウォールポリシーで次のエンドポイントへの HTTP / HTTPS トラフィックを許可する必要があります。

- \ <https://support.netapp.com/aods/asupmessage>
- \ <https://support.netapp.com/asupprod/post/1.0/postAsup>

AutoSupport メッセージの送信にアウトバウンドのインターネット接続が使用できない場合、Cloud Volumes ONTAP システムは自動的にコネクタをプロキシサーバとして使用するように設定されます。唯一の要件は、コネクタのセキュリティグループがポート3128で\_inbound\_connectionsを許可することです。コネクタを展開した後、このポートを開く必要があります。

Cloud Volumes ONTAP に厳密なアウトバウンドルールを定義した場合は、Cloud Volumes ONTAP セキュリティグループがポート3128で\_OUTBOUND接続を許可する必要もあります。

アウトバウンドのインターネットアクセスが使用可能であることを確認したら、AutoSupport をテストしてメッセージを送信できることを確認します。手順については、を参照してください "[ONTAP のドキュメント](#) : 「[AutoSupport のセットアップ](#)」。

### AutoSupport 構成のトラブルシューティングを行います

アウトバウンド接続が使用できず、BlueXPがコネクタをプロキシサーバとして使用するようにCloud Volumes ONTAP システムを設定できない場合は、「<作業環境名> is unable to send AutoSupport messages」というBlueXPから通知が届きます。

ネットワークの問題が原因でこのメッセージが表示される可能性が高いです。

この問題に対処するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. CLIからシステムを管理できるように、Cloud Volumes ONTAP システムにSSH接続します。

"Cloud Volumes ONTAP にSSH接続する方法について説明します"。

2. AutoSupport サブシステムの詳細なステータスを表示します。

「AutoSupport check show-sdetails」

次のような応答が返されます。

```
Category: smtp
  Component: mail-server
    Status: failed
    Detail: SMTP connectivity check failed for destination:
            mailhost. Error: Could not resolve host -
'mailhost'
    Corrective Action: Check the hostname of the SMTP server

Category: http-https
  Component: http-put-destination
    Status: ok
    Detail: Successfully connected to:
            <https://support.netapp.com/put/AsupPut/>.

  Component: http-post-destination
    Status: ok
    Detail: Successfully connected to:
            https://support.netapp.com/asupprod/post/1.0/postAsup.

Category: on-demand
  Component: ondemand-server
    Status: ok
    Detail: Successfully connected to:
            https://support.netapp.com/aods/asupmessage.

Category: configuration
  Component: configuration
    Status: ok
    Detail: No configuration issues found.
5 entries were displayed.
```

http-httpsカテゴリのステータスが「ok」の場合は、AutoSupport が正しく設定されていて、メッセージを送信できることを意味します。

3. ステータスがOKでない場合は、各Cloud Volumes ONTAP ノードのプロキシURLを確認します。

「AutoSupport show -fields proxy-url」の略

4. プロキシURLパラメータが空の場合は、コネクタをプロキシとして使用するようCloud Volumes ONTAPを設定します。

```
AutoSupport modify-proxy-url'http://<connector private ip>:3128'
```

5. AutoSupport のステータスを再度確認します。

```
「AutoSupport check show-sdetails」
```

6. このステータスがFAILEDの場合は、Cloud Volumes ONTAP とポート3128のコネクタの間に接続が確立されていることを確認します。
7. 接続が確立されていることを確認したあともステータスIDに障害が発生している場合は、コネクタにSSHで接続します。

["ConnectorのLinux VMへの接続の詳細については、を参照してください"](#)

8. 「/opt/application/netapp/cloudmanager/docker \_occm/data/」に移動します
9. プロキシ構成ファイルsquid.confを開きます

ファイルの基本構造は次のとおりです。

```
http_port 3128
acl localnet src 172.31.0.0/16
acl azure_aws_metadata dst 169.254.169.254

http_access allow localnet
http_access deny azure_aws_metadata
http_access allow localhost
http_access deny all
```

localnet srcの値は、Cloud Volumes ONTAP システムのCIDRです。

10. Cloud Volumes ONTAP システムのCIDRブロックがファイルで指定された範囲にない場合は、値を更新するか、次のように新しいエントリを追加します。

```
「acl cvsonet src <CIDR>」と入力します
```

この新しいエントリを追加する場合は、許可エントリも追加することを忘れないでください。

```
「http_access allow cvsonet」 というメッセージが表示されます
```

次に例を示します。

```
http_port 3128
acl localnet src 172.31.0.0/16
acl cvonet src 172.33.0.0/16
acl azure_aws_metadata dst 169.254.169.254

http_access allow localnet
http_access allow cvonet
http_access deny azure_aws_metadata
http_access allow localhost
http_access deny all
```

11. 設定ファイルを編集したら、sudoとしてプロキシコンテナを再起動します。

```
'docker restart squid'
```

12. Cloud Volumes ONTAP のCLIに戻って、Cloud Volumes ONTAP からAutoSupport メッセージを送信できることを確認します。

```
「AutoSupport check show-sdetails」
```

## EMS を設定します

Event Management System（EMS；イベント管理システム）は、ONTAP システムで発生したイベントについて情報を収集して表示します。イベント通知を受信するには、イベントの宛先（電子メールアドレス、SNMP トラップホスト、または syslog サーバ）とイベントのルートを特定のイベントの重大度に設定します。

EMS は CLI を使用して設定できます。手順については、を参照してください ["ONTAP のドキュメント：EMS の設定の概要"](#)。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。